

月刊東乳商

第487号

発行所 東京都牛乳商業組合
 広報部 〒101-0035
 東京都千代田区神田紺屋町29
 神田Sビル
 ☎ (5295) 3721(代表)
 FAX (5295) 3724

東京都牛乳商業組合 平成19年8月20日
 ●URL <http://www.tokyo-gyunyuya.com> E-mail tonyusho@forest.ocn.ne.jp
 毎月20日発行・定価1部150円 1年1800円(郵便料共)(昭和47年2月22日第3種郵便物認可)

乳製品販売顧客管理コンピュータシステム

市乳くん

宅配/卸・ハンディ・本支店間・LAN・EOS・顧客管理

【資料請求はこちらから】>>>> 0120-5959-92
 株式会社 オシカワシステム <http://www.oskw.jp>

19年度の研修会日程決まる!!

19年度の研修会日程は以下のように決まりました。販売店経営のスキルの上向上と同時に地域の皆様との交流を更に深める良い機会です。地域の販売店さん、ご家族の方、後継者の方、従業員の方々など、お誘い合わせの上ぜひご参加下さい。研修会開催案内状は研修会の1ヶ月前に各販売店宛に発送します。

日程	研修会場	ブロックおよび支部	
		ブロック	支部
9月15日 (土曜日)	中野サンプラザ	城西	新宿、中野、杉並、
		城北	文京、北、豊島、板橋、練馬
9月22日 (土曜日)	タワーホール船堀	中央	千代田、中央、台東、荒川、墨田、江東、
		城東	足立、葛飾、江戸川、
10月13日 (土曜日)	三多摩労働会館	多摩第1 ～多摩第3	多摩地区全支部
10月27日 (土曜日)	世田谷区立玉川区民会館	城南	港、品川、大田、目黒、渋谷、
		山手	世田谷

中絡「牛乳に相談だ」 キャンペーンに東乳商も協賛

拡販ツール販売店へ8月初旬発送完了

東乳商新聞「月刊東乳商」七月二十日号でもお知らせしたが、(社)中央酪農会議(以下「中絡」)が推進している「牛乳に相談だ」キャンペーンに東乳商も協賛している。キャンペーンの一環として中酪から都内の東乳商加入の全牛乳販売店に拡販プロモーションツールを八月初旬に発送した。発送品の内訳は1販売店当たり

1. 冊子「夏休みの子育てが
2. キャンペーン・グッズ(マグネット) 50個
3. 営業車両用ステッカー(横35cm、縦25cm) 6枚

販売店におかれましてはこれらの販促ツールを有効に使って、特にお子様のいるご家庭への拡販を推進されることを願います。

松井選手、特製牛乳「パワー」で大活躍!

松井秀喜選手が大活躍のアメリカ大リーグ。七月の大リーグ月間最優秀選手(MVP)にア・リーグの野手部門で十三本塁打を放ったヤンキースの松井秀喜選手が選ばれた。MVPに日本人が選ばれたのは四人目で、以前に野茂投手、伊良部投手、イチロー選手が受賞している。松井選手はさらに大リーグ通算一〇〇号本塁打も達成した。これは日本人では初の快挙だ。

その松井選手も昨年は怪我で苦しんだが、懸命のリハビリの結果、第一線に復帰したことも記憶に新しい。昨年、週刊文春に載っていた、松井選手のパワーの源は牛乳だという話を紹介したい。

松井選手は体重管理を含めた食生活に一番気を使っているそう。量を全体的に少なくしている。量を全体的に少なくしていろいろなおかずをバランスよく摂り、カルシウム補給には子供のときからもっぱら牛乳を水代わりに飲んできた。しかしアメリカに来て困ったのがその大事なカルシウム補給源となる牛乳のまじさだった。

「こっちのスーパーで牛乳を探すと、いわゆるローファットの低脂肪牛乳ばかり。あれはダメ!!いや、ほんとにまじいんです。で、探し回って見つけた牛乳があるんです」

それがマンハッタンにある大型の食品スーパーチェーン「ホール・フーズ・マーケット」で売っている「ホール・ミルク」だった。

「たぶんオーガニック系の商品だと思っただけで、これは非常に濃厚で牛乳本来のコクがあるんですよ。値段はちょっと高いですけどね。でもこの牛乳だったら毎日、水代わりにガブガブ飲めますね。」

ちなみに通常の牛乳は、日本の五〇〇ミリリットルのパックより少し大きいボトルで2ドルを切る値段だが、この「ホール・ミルク」は四ドル七七セントと倍以上の高級品。それでも松井にとっては「命の水」ならぬ「命の牛乳」となるわけだから、まとめ買いして冷蔵庫には二、三本常備されている。

「アメリカに来て、あらためて日本の牛乳っておいしいなあって懐かしんでいましたけど、この牛乳を飲んでからは「ミルク・ホームシック」はなくなりまして。これが骨のためにどれくらい効果があるかわからないけど、でも一杯飲むたびに、なんか効果があるような気がするだけでもいいんですよ」

このお気に入りのミルクが大活躍の源のようだ。
 (週刊文春二〇〇六・七・二〇号より)

猛暑本番、食中毒にご用心を!!

配達した牛乳の温度管理は大丈夫、ですか? 食中毒が多発するこの季節、私達は空ビン回収で病原菌に触れる機会が多い仕事です。手洗い励行が食中毒予防の基本、配達前後の手洗いを確実に実行しましょう。東京都が推進する食品衛生自主管理認証制度でも衛生管理の基本は、先ずは手洗いからです。我々の仲間から食中毒患者を出さないよう気をつけましょう。

先月号の東乳商新聞に掲載した「東乳商19年度新体制」の中で、副理事長の担当業務の一部が欠落していましたので、改めて掲載いたします。

副理事長担当業務	
広川雅也	財務、組織、50周年記念事業準備委員長 担当ブロック 山手、城南、多摩第3
磯辺元央	組織、顧客台帳作成促進事業 担当ブロック 多摩第1、多摩第2
川井邦伸	総務、組織、牛乳価格適正化事業、 研修会、定款変更 担当ブロック 城西、城北
高津征夫	組織、販売店ホームページ作成支援事業 担当ブロック 中央、城東

東乳商組合員計報のお知らせ

謹んでご冥福をお祈り申し上げます
 七月二十七日 日野市
 森永牛乳南平販売店
 喜多村久雄殿ご合室
 けい子殿 享年七二歳

改善協版

平成十九年度

全改協実施事業について

- 平成十九年七月二十七日(金) 十五時三十分より、御茶ノ水ホテル寿楽に於いて都改協役員会が行なわれ、全国牛乳流通改善協会十九年度実施事業についての説明が行なわれた。出席者は依田会長、川幡・河野・渡辺副会長、関根・相田・牛尾田各マーク長および山口事務局長の八名。その内容については次の通りである。
- 一、牛乳販売店調査・検討・拡張・マニュアル作成事業(優良事例販売店の事例調査・検討を通じて牛乳売拡張マニュアルを全改協が作成するもの)
- 二、牛乳普及啓発資料作成・配布事業(普及啓発パンフレットを全国で四百二十五万部を配布するもの)
- 三、牛乳販売店消費者ニーズ把握実態調査事業(全国で五千件の消費者アンケート調査を行なうもの)
- 四、地域牛乳販売店活性化事業(パソコン研修)
- 五、後継者育成研修会事業(後継者を中心とした講師による経営管理の基礎知識について研修するもの)
- 六、牛乳販売店優良事例発表会事業(優良な業績の販売店の事例発表会により普及啓発を行なうもの)
- 七、牛乳販売店衛生管理強化対策事業(消費者に安心安全に牛乳を摂取して

牛乳製品流通活性化対策事業

- 一、牛乳販売店調査・検討・拡張・マニュアル作成事業(優良事例販売店の事例調査・検討を通じて牛乳売拡張マニュアルを全改協が作成するもの)
- 二、牛乳普及啓発資料作成・配布事業(普及啓発パンフレットを全国で四百二十五万部を配布するもの)
- 三、牛乳販売店消費者ニーズ把握実態調査事業(全国で五千件の消費者アンケート調査を行なうもの)
- 四、地域牛乳販売店活性化事業(パソコン研修)



もらえるように牛乳販売店の衛生管理の強化を図るもので、保冷車製氷機のリース物件の4%を補助するもの)

協会組織強化促進事業

ブロック会議・事務局長会議・全改協だより等以上であるが、予算枠の関係からかここ数年情報整備提供事業、牛乳販売店経営診断事業、老人牛乳、牛乳販売店調査事業等々がなくなっている。

この後依田会長から参議院選挙の取り組みについて要請があつて会議を終了した。

都普協版

骨密度調査二〇〇五報告会より

最新調査結果からみる牛乳・乳製品の摂取状況と骨密度の関係

牛乳・乳製品の摂取が、幅広い世代で骨の健康に役立っていることは、よく知られるようになりました。それはイメージやい側面の情報だけではなく、多方面からの地道な調査研究によって裏付けられています。こうした調査研究の中から今回は、高校生を対象に全国規模で行われた骨密度調査と、その結果報告についてご紹介いたします。

室において解析し、牛乳・乳製品摂取との関係を検証。昨年十一月の報告会で、同研究室の上西一弘教授より発表が行われました。

全国骨密度調査は多くの年代に対して行われてきました。が、今回の発表では最大骨量を獲得する年齢と考えられる、高校生を対象とした調査である点に注目が集まりました。

《最大骨量を獲得する時期は高校生頃》

今回は、超音波を用いて踵の骨の骨量を調べる方法で測定。超音波の透過速度(SOS)と透過指標(TI)を測定し、二つの指標から音響的骨評価値(OIS)を算出。この音響的骨評価値を用いて骨量を評価します。

その結果、骨量の経年変化では女性の骨量のピークは十八歳、男性は十九歳という結果が得られました。ただ、男子では十五歳から十八歳で骨量の増加がみられましたが、女子では統計的に有意といえる増加はみられませんでした。

《全国の高校生を対象とした骨密度調査》

骨粗しょう症の発症と予防を考えると重要となる、若年層の骨密度について、全国規模の調査研究が行われました。この調査は農林水産省と日本酪農乳業協会により、二〇〇五年六月から二〇〇六年三月にかけて、全国四十四都道府県、約一万三千人の高校生を対象に実施されたものです。

協力していただいた高校で高校生の現在の骨量を、超音波式踵骨骨評価装置で測定。さらに、現在および小学生、中学生時代の牛乳摂取状況や運動状況などの生活習慣を、本人にアンケート回答してもらいました。その中から調査結果の研究への使用同意を得られた方(男子四、四一八〇名、女子八、四四〇名)の結果を女子栄養大学栄養生理学研究室

《成長期の学校給食、朝食が骨を育てる》

過去の多くの調査結果からも、成長期における骨の発育に牛乳・乳製品の果たす役割は重要であると考えられてきました。現在、小学校で広く実施されている学校給食の牛乳・乳製品がこどもたちの骨の成長にとって大切なカルシウム補給の機会であることが、朝食をきちんと取ることが、骨の成長に影響する要素であることが考えられます。

《「骨密度」「骨量」とは？》

骨の丈夫さ、強さについて考える時に「骨密度」「骨量」という言葉がよく使われます。骨は「骨基質(コラーゲンなど)」と「骨塩(ハイドロキシアパタイト)」からできています。「骨量」はその総和で、その人の体内にある骨の全体的なことです。「骨密度」とは、骨の中の「骨塩」つまりカルシウムをはじめミネラルが詰まっている程度をあらわします。

「骨密度が高い」と、骨はしっかりとして強度を保った状態です。骨粗しょう症では「骨密度」が下がった状態になっています。

また、運動状況でみると、小中学生時に運動をしていた、また、現在、運動をしているこどもたちの方が男女ともに高い骨量を獲得している結果がみられました。

こうしたことから、成長期における牛乳・乳製品の摂取と運動が、骨の成長に深く関係する要素であることが認められます。

上西一弘先生プロフィール
女子栄養大学
栄養生理学研究室教授
栄養学博士。専門は栄養生理学。カルシウムの吸収・利用に関する研究、身体測定とライフスタイルを合わせた栄養評価などを行っている。
二〇〇五食事摂取基準策定委員。